



地域の概況

- 市川市は、千葉県の北西部、東京湾の最奥部に位置
- 江戸川を隔てて東京都と相対し、都心から20kmの圏内
- 人口は約47万3千人、面積約56.4 km²
- 京浜工業地帯の一翼を担うとともに、文教・住宅都市を形成

漁場の概況

- 江戸川放水路河口部には三番瀬(さんばんぜ)と呼ばれる東京湾奥部最大の干潟
- 多様な生物を育む貴重な自然環境であるとともに、浅海漁業の重要な漁場

漁業の概況

漁業種類	水揚量 (t)
採貝業	535
海苔養殖業	345
固定式刺網	40
底びき網	63

漁業種類別水揚量 (平成24年度)

- 採貝業は、組合員の3/4が従事しており、漁獲量も約半分を占める
- 主な漁獲物は、アサリ、ホンピノス、シジミ

アサリ ホンピノス

東京湾とホンピノス

- ホンピノスは、日本では行徳・船橋のみで漁獲
- 元来、カナダが原産地の大型の貝で、クラムチャウダーなどに利用。東京湾のものは、船のバラスト水と一緒に海外から運ばれたものと考えられる
- 当初は、これを利用する方法もわからず、未利用資源となっていたが、現在は、魚屋の店頭に並ぶ。

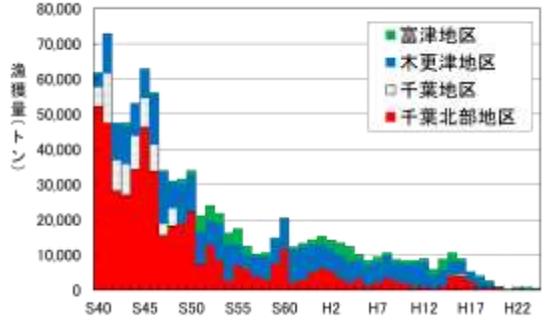
2. 地域の現状と課題



- (1) 千葉県地区別アサリ漁獲量の推移
- (2) アサリの減耗要因
- (3) 活動の経緯

千葉県地区別アサリ漁獲量の推移

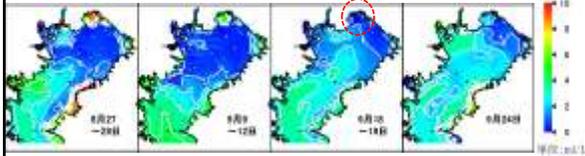
あさりの激減の要因としては、青潮の発生、冬季波浪、食害等が挙げられる。



アサリの主な減耗要因（青潮）

青潮による減耗

夏季～秋季に北風が吹くと北部海域に貧酸素水塊が湧き上がり「青潮」が発生



2013年夏季の貧酸素の状況

※出典
東京湾貧酸素水塊推定システム
「千葉県農林水産部水産総合研究センター-東京湾漁業研究所」
<http://www.pref.chiba.lg.jp/lab-suisan/suisan/hinsanso/>

アサリの主な減耗要因（冬季波浪）

ノリ支柱欄の減少による冬季波浪による減耗



千葉県のノリ養殖柵数の推移

アサリの主な減耗要因（食害減耗）

スズガモ、ツメタガイ等の食害による減耗



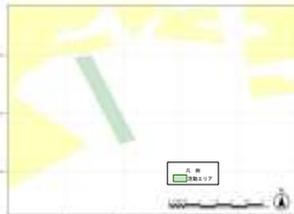
スズガモ

ツメタガイ

活動の経緯

環境・生態系保全対策の取組み
(平成22～24年)

- 耕うん
- 機能低下を招く生物の除去（ツメタガイ）
- 稚貝の密度管理



活動の経緯



2012/9/26 の青潮

アサリ、ホンビノスガイの大量斃死

平成23～24年度に覆砂を行った高い場所のみ、
貝類が生き残った（※環境・生態系保全対策とは別事業）。



覆砂（客土）の重要性を認識し、
水産多面的機能発揮対策事業
で漁業者自らが覆砂を実施することとした。

3. 活動組織の概要



- (1) 活動組織の構成
- (2) 活動位置

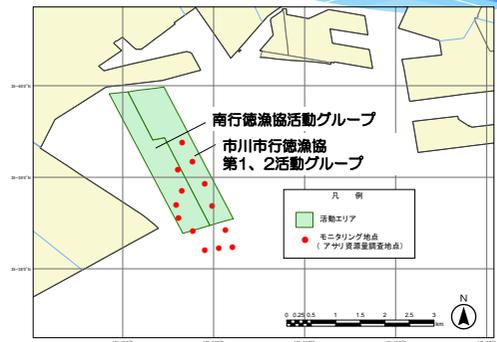
活動組織の構成



- 市川市では南行徳漁協、市川市行徳漁協の組合員と地域住民を中心として、3つの活動組織を設立

グループ名	構成員数（人）	活動面積（ha）
南行徳漁業協同組合活動グループ	38人	116ha
市川市行徳漁業協同組合第1活動グループ	25人	61ha
市川市行徳漁業協同組合第2活動グループ	28人	61ha

活動位置



4. 活動の目標と計画



- (1) 活動目標とメニュー
- (2) 平成26年度計画

活動目標とメニュー



■ 目標

干潟（アサリ等の二枚貝漁場）の保全・再生

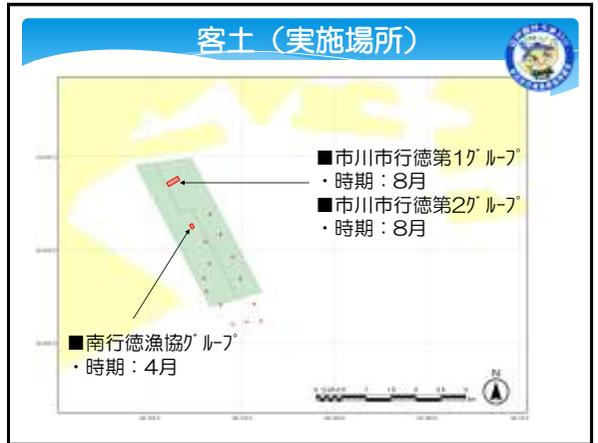
■ 活動メニュー（3ヶ年）

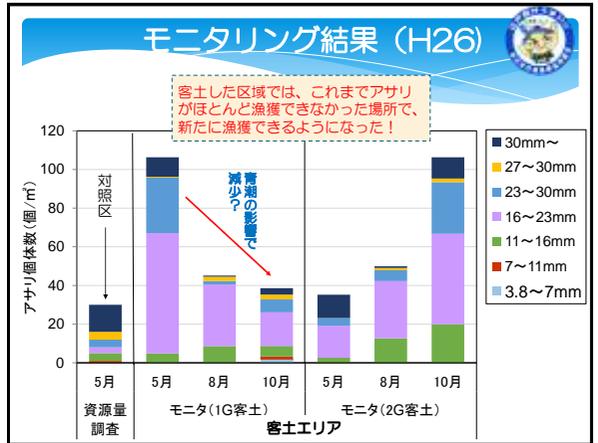
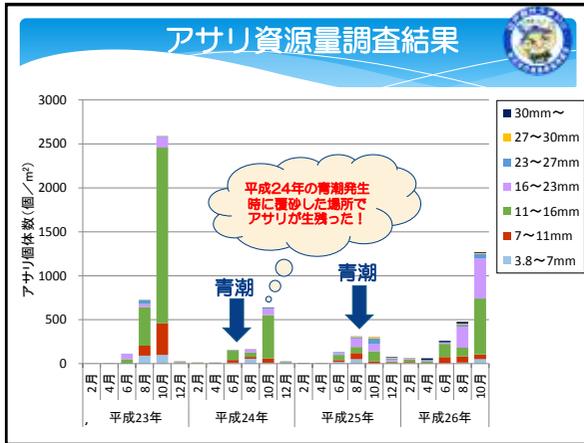
- ① 客土
- ② 機能を招く生物の除去（ツメタガイ）
- ③ 保護区の設定
- ④ 稚貝の沈着促進
- ⑤ 稚貝の密度管理
- ⑥ 機能発揮のための生物移植

平成26年度計画

干潟・浅場の保全活動項目	平成26年												平成27年		実施組織	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月					
客土	←	→														南行徳漁協活動グループ
客土					←	→										市川市行徳協第1・第2活動グループ
機能低下を招く生物の除去(覆足類)														←	→	全組織
保護区域の設定														←	→	全組織
種員の沈着促進														←	→	南行徳漁協活動グループ
種員の密度管理														←	→	全組織
機能発揮のための生物移植														←	→	全組織
モニタリング	←	→												←	→	全組織

※12月以降は予定





6. 客土の効果と今後の課題

客土の効果

これまで使えなかった場所を漁場として使えるようになった。

今後の課題

1. 客土による稚貝発生効果が確認されたが、効果は場所によって異なるので、**滞りやすい場所**を選択することが重要。
2. 客土した砂は、波や流れなどの海水の動きによって次第に減少するので、(当然のことながら) **静穏な場所**で客土を行うことも重要。
3. 客土の効果で発生した稚貝は、**青潮や波、食害の影響によって減少するので、予めその対策を検討しておくことが必要。**

